
ゆるゆり 百合(?)な日常

しっとりチョコ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ゆるゆり百合（？）な日常

【Zマーク】

ＺＺＺＺＺＺＺ

【作者名】

しつとつチヨン

【あらすじ】

ここでは、小説のことは超ド素人の私が短編集を掲載していくます。自分で読んでも駄文と思える作品なので、どうか暖かい目で見てくれるとありがたいです。様々なカツプリングや思いつきシチュエーションなど、おもしろく書いていこうと思います。また、タイトル通り百合要素が混じつてたりなかつたりですがこれからどうぞよろしくお願いします。

また、カツプリングやシチュエーションなどのリクも募集中です！

いやあー京結サイコォ～～

いろんな私的 lý 由で不定期更新です。

ふと、思つたけど、駄文すぎでリクなんて来ないんじや
：

京結な口常（前書き）

今回は定番である京結を書いてみました。
最後まで読んでくれたらうれしいです。

また、誤字・脱字、読みにくいなどの意見があつまいたら遠慮なく
どうぞ。

又オーフィスまでお問い合わせ下さいません。w w

ピンポン
お昼になり、ちゅうじゅうおやつを食べよつと思つた頃に玄関のチャイム
が鳴る。

「はい、どなた…」

「お毎食べに来たよー結衣いー」

ペリ

まつたべ、あこつせじわじわじわもタイミングのここ時に来るのだ
うつか。

ピンポンピンポンピンポンピンポン～

1

そして、今度は定番となつたある連続。ピンポン。

「結衣ーお腹食べこさせ…」

ゴンツ！

「まったくお前は…いつも急だな。」

「結衣が寂しそうにしてそうだったから早く来たのにやー」

「寂しくなんかない」

今日もいつものごとく、私の田の前では京子が本田の昼食であるハンバーグを食べている。

…頭にたんこぶをつけながら。

「やっぱ結衣の料理はおいしいな」

「どうも」

「…あれ、結衣のハンバーグ、私のと違つ」

「ああ。私のはケチャップがかかつてて、京子のはチーズがのつてるんだよ」

「ふーん。…じゃあさ、結衣」

「ん?」

「はい、あーん」

「…?」

突然、京子が私の前に一切れのハンバーグをもつてくれる。

「結衣も私の食べたいでしょ?」

「そ、そんなこと…」

「いいから。はい、あーん

「…あ、あーん」

パクッ…モグモグ

「おこし…?」

京子が首をかしげて聞こえてくる。

「お、おこしおよ」

「へへ、わっすがあたしー」

「いや、作ったのは私なんだけどな」

「結衣、私にもあーんして

「え…」

「はい、早くー」

「じゃ、じゃあ…あ、あーん

「あーん」

パクツ：モグモグ

「お、おいしい？」

「アラ、おこし」

ただ、京子と食べ物をひとつひとつだけなのに……なんでこんなに
ドキドキするんだ？…

「ふうー、これがーこれがー」

גַּתְתַּחַתְּנִירִים

お昼を食べ終えた私たちは食器を片づけてこの後何しようか考えてた。だけど…

「ふああ……眠くなつてきたなー……」

「私も」

私たちに睡魔が襲いかかる。正直、このまま眠ってしまいたい……

「京子…寝る?」

「うん、寝たい……」

意見合致したので早いけどテーブルを片づけ、布団を引っ張り出す。

「詰め、おやぢみー」

「おやすみ」

そして私は目をつぶる。

意識が奥に引つ張られ、私はそのまま眠りについた。

「まつたく、あんなかわいいと」見せられたら我慢するの大変なのに…」

結衣が寝た後、京子の目が開き、その本人の背中に向かって呟く。

「結衣…好きだよ」

そう言って、京子もまた眠りについた。

京結な日常（後書き）

読んでくださいり、ありがとうございました。
これからもよろしくお願いします。

京綾のハーフンクのちを泊り（前書き）

今回は京綾（？）で書いてみました。
一話毎と回じよつな流れになってしましましたが… 気にしないよつ
こー。

最後まで読まないと罰金バッキンガムなんだからねつー／＼／＼

京綾のハプニングのちお泊り

「あれ、綾乃じゃん」

「と、歳納京子！」

溜まった生徒会の仕事が終わり、さて帰りつつと玄関口に向かうと、そこで歳納京子とはちあわせした。

千歳は今日は用事があると先に帰り、他の生徒会メンバーもとっくの前に下校している。

「こんな遅くまで学校にいるなんて、どうしたの？」

「私は生徒会の仕事で…。あなたこそ何してたのよ？」

「私は数学の補習ー」

「…あなたって人は…」

「ハア…とため息つきながらも歳納京子だから…となぜか納得してしまつ。

「じゃあ、私はこれで…」

「綾乃、一緒に帰ろつよ

「えー？」

「いいじゃん。もう外は暗いし、一人だと危ないでしょ？」

たしかに、今は曇り空のせいでいつもより暗い。女の子が一人で帰るってのも危ない。

「し、仕方ないわね。どうしてもとこつなら…」

「おし、じゃ帰ろっか

そつぱつて、私たちは外に向けて歩き出す。

「あれ…げつ…」

歩いていると空からポタポタと雨が降ってきた。それも、次第に強まっていく。

「わわわ…びうじゅう…」

周りは家ばかりで雨宿りできそつな所はない。どうじょつかと考えてると…

「私の家、すぐ近くだから。走ろっ」

そつぱつと、京子は綾乃の手を握つて走り出す。

「え、ちよ、ちよつと…」

いきなり手を掴まれてドキッとするが、今の状況では何も言えない。こうして2人は急いで京子の家へ向かつ。

「あーずぶ濡れだ…」

みづやく京子の家についた。急いで走ったのに、玲は無情にも2人の体を濡らしていた。

「濡れたままだと風邪ひくなっちゃから、お風呂入っちゃって」

やつぱり京子はお風呂があるであつて、部屋のドアを敲たず。

「わかったわ」

そう言つて、玲乃はお風呂へ向かへ。…京子の座り下げなこやけ顔に
『気づかず』。

「ふう…気持ちいい…」

玲乃はいつの間にか入れられていた風呂に入りながら少しひぶやく。

バンッ

「お待たせーーー！」

「あやあーーー！」

玲乃が驚くのも無理はない。京子がいきなりお風呂入ってきたのだ。
しかも前を隠してない…。

「うふ、うふっとーーー前へりこ隠しなきことよーーー」

「えー女同士なんだからいいじゃん」

そう言いながら京子は体を洗い始める。

「と、歳納京子…」

「ん？ 何？」

「あ、ありがとね」

「ニヤニヤ、ビビったしましドー」

そんな会話をしながら、京子は頭、体を洗つていく。

体を洗い終わった京子は、綾乃が入つてこる湯船へぞっぴんといづ音を立てて入る。

「ジーー…」

「な、何よ…？」

「やつぱり綾乃も結構あるね…」

「ビ、ビリリ見つめるよぉー…」

京子の視線と言葉の意味に気付き、慌てて手で隠す。

「こ、こじやん別に減るもんじゃなこしちゃー」

「そういう問題じゃないわよおーー！」

「ふうー気持ちよかつたー」

「まつたくもう…／＼／＼

2人はこの後、お風呂から出て、それぞれパジャマに着替えた。外はすでに暗いし、時間も遅いため、綾乃是京子の家に泊まることになった。

「ゴメンね、お風呂だけでなく、泊めてもらつて…」

「いいくていいくて」

そう言いながら京子は自分のベットに潜り込んでいく。

「ほり綾乃、おいで」

そう言って、京子はベットをポンポンと叩く。

「わ、私は床で寝るからいいわよ…」

「ダメだって。ほり、早く」

「で、でも…」

「…はあ」

突然、ため息をつく京子。そして、ベットから出て綾乃に近づき…

ガバッ

「わッ」

京子はいきなり綾乃に襲いかかり、ベットに押し倒す。
そして、自分もベットに入り、後ろからガッチリと綾乃に抱きつく。

「ちよつと…歳納京子お／＼／」

「…そんなに私と寝るのイヤ?」

「い、イヤじゃないけど…」

「だつたらいいじゃん。早く寝ないと遅刻しちゃうよ?」

「…ふふ…あなたからそんな言葉聞けるなんて思わなかつたわ」

「ぶうーどういっ意味だよ、それー」

「ううー、2人はクスクスと笑いあう。

「…じや、おやすみ」

「おやすみなさい」

2人は「うして眠りにつく…

ガバッ

「え、えいしたの、歳納京子？」

「……宿題……」

「……えええい？……？」

「いやら、2人の夜はまだまだ長いらし……

京綾のハピーネンケのちお泊り（後書き）

今回も見ていただき、ありがとうございました。

誤字・脱字など意見がありましたら遠慮なくヒアリング。

何度も言いますが、駄文については温かに目で…（r y

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2323y/>

ゆるゆり 百合（？）な日常

2011年11月17日18時49分発行